

修士論文（要旨）
2020年1月

高齢者の QOL を高める要因についての研究
—心理社会的発達課題と死に対する態度との関連から—

指導 久保 義郎 教授

心理学研究科
健康心理学専攻
217J4057
平澤 奈保子

Master's Thesis(Abstract)
January 2020

Factors Associated with the Enhancement of QOL among the Elderly: Focusing on the
Relationship between Psychological Developmental Issues and Attitudes toward Death

HIRASAWA, Naoko

217J4057

Master's Program in Health Psychology

Graduate School of Health Psychology

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: KUBO, Yoshio

目次

第1章 序論.....	1
1.1 高齢者の QOL に関するこれまでの研究	1
(1) 高齢者の QOL 拡大の重要性	1
(2) QOL の概念に関するこれまでの研究.....	2
1.2 高齢者の QOL に影響する要因.....	3
(1) 高齢者の「死の受容」と QOL.....	3
(2) 高齢者の QOL とスピリチュアリティ	4
(3) 高齢者の心理社会的発達課題と QOL	5
1.3 本研究の目的	5
第2章 方法.....	6
2.1 研究方法	6
(1) 対象者	6
(2) 研究手続き	6
2.2 変数と分析方法.....	7
第3章 結果.....	8
第4章 考察.....	18
4.1 本研究から言えること.....	18
4.2 今後について	18

引用文献

資料

第1章 序論

現在わが国は、未曾有の勢いで高齢化が進んでおり、2025年には高齢化率（65歳以上の人たちの人口が総人口に占める割合）30%を上回ると推計されている（権藤，2018）。

このように長寿化がほぼ達成されたことにより、次に伸びた余命の内容にかかわる健康寿命が新たに注目されるようになった。2015年の健康寿命は男性71歳、女性76歳で、共に平均寿命との間に10歳の差がある（内閣府，2018）。健康で幸せな人生を送るためには、高齢者はこの差を小さくすること、健康寿命を延ばすことが目標となり、そして長くなった健康寿命をどう生きるかが大きな課題となってくる。

そこで本研究では、高齢者のQOLを高める要因について検討を行う。

第2章 方法

エリクソンの老年期における発達課題である統合性とQOLとの関連、また統合性と死に対する態度との関連を明らかにするために、60歳以上の高齢者215名に、質問紙調査を行った。尺度は以下を使用した。

- ① 基本属性：フェイスシート（年齢、性別、最終学歴、社会活動、婚姻の有無等）
- ② 発達課題：Inventory of psychosocial balance (IPB) 日本語版（以下、IPB）
- ③ QOL：高齢者スピリチュアリティ評定尺度（SRS-E）（以下、SRS-E）
- ④ 死に対する態度：死に対する態度尺度短縮版（DAP）（以下、DAP）

分析方法

分析1. ①DAPを目的変数、IPBを説明変数とした重回帰分析を行った。②次に、SRS-Eを目的変数、DAPを説明変数とした重回帰分析を行った。

分析2. SRS-Eにおよぼす、IPBとDAPの交互作用を調べるために、階層的重回帰分析を行った。

第3章 結果

①発達課題の「統合性」が高まると死への態度の「回避的受容」が低くなることが示され、②死への態度の「積極的受容」と「中立的受容」が高まるとQOLの多くの因子の得点が高くなり、③「死の恐怖」が高まるとQOLの「未来への心の準備」が高くなり、④「回避的受容」が高まるとQOLの「乗り越えた道の確認」と「自己存在の探求」が低くなることが示された。

また、発達課題の「統合性」が高くなるとQOLの「乗り越えた道の確認」、「他者とのつながり」、「超越的なものへの関心」、「自己存在の探求」、「未来への心の準備」の全てが高くなることが示された。

第4章 考察

本研究より、高齢者のQOLを高めるために、従来とは異なる健康心理学的視点でのデュエデュケーションが必要と考えられた。そして、その方策を考えるうえで、本研究の結果が役立つ可能性がある。たとえば、ライフストーリーインタビューによって、高齢者の「統合性」を高めると、死への態度の「回避的受容」が低くなり、QOLが高まる可能性が考えられる。

引用文献

- 青木邦夫 2015 在宅高齢者の Quality of Life に関連する要因の関連性 山口県立大学学術情報, 8, 17-31.
- Baltes P.B., Smith 2003 New frontiers in the future of aging ; From successful aging of the young old to the dilemmas of the fourth age. Gerontology, 49, 123-135.
- baltes, P.B. 1987 Teoretical propositions of life-span developmental psychology:On the dynamics between growth and decline. Developmental Psychology, 23, 611-626.
- 出村慎一・佐藤進 2006 日本人高齢者の QOL 評価－研究の流れと健康関連 QOL および主観的 QOL 体育学研究, 51, 103-115.
- エリクソン, E.H.・エリクソン, J.M. 2001 ライフサイクル、その完結<増補版> みすず書房
- エリクソン, E.H.・エリクソン, J.M.・キヴニク, H.Q. 1990 老年期－生き生きしたかかわりあい みすず書房
- 藤井美和・李政元・田崎美弥子・松田正巳・中根充文 2005 日本人のスピリチュアリティの表すもの：WHQOL のスピリチュアリティ予備調査から 日本社会精神医学会雑誌, 14, 3-7.
- 藤井美和 2015 死生学と QOL 関西学院大学出版会
- 藤井美和・浜野研三・大村英昭・窪寺俊之 2010 生命倫理における宗教とスピリチュアリティ 晃洋書房
- 藤井美和 2000 病む人のクオリティーオブライフとスピリチュアリティ 関西学院大学社会学部紀要, 85, 33-42.
- 五ノ井仁美・下中順子 2010 高齢者におけるライフレビューと心理社会的発達の関係 文教学院大学人間学部研究紀要, 12, 323-340.
- 針金まゆみ 2011 老年期における死に対する態度と老いへの準備行動 桜美林大学大学院 博士学位論文
- 針金まゆみ・河合千恵子・増井幸恵・岩佐一・稲垣宏樹・権藤恭之・小川まどか・鈴木隆雄 2009 老年期における死に対する態度 (DAP) 短縮版の信頼性ならびに妥当性 「厚生指標」 56, 1, 29-40.
- 井原一成 2013 高齢者の健康増進 ー日本の公衆衛生における健康増進行政の展開と超高齢化社会における専門家ー
- 石丸昌彦・山崎浩司 2018 死生学のフィールド 一般財団法人 放送大学大学振興会
- 石丸昌彦・山崎浩司 2018 死生学のフィールド NHK 出版
- 石野学・小山秀之・島田修 2007 教育の質的際における宗教性と死生観の関係 日本教育心理学会第 49 回総会発表論文集, 195.
- 神谷ひかる・豊里竹彦・古謝安子・與古田孝夫 2013 地域在住の高齢者のスピリチュアリティがストレス認知ーストレス対処行動を介在に抑うつ傾向に及ぼす影響 琉球学会誌, 32, 33-44

- 河合千恵子・下仲順子 1989 老人の家族感情と Quality of Liife に関する研究 日本教育心理学会第 31 回総会発表論文集, 177.
- 川島大輔 2005 老年期の死の意味づけを巡る研究知見と課題 京都大学大学院教育研究科紀要 51, 247-261.
- 川島大輔・近藤恵 2016 はじめての死生心理学 現代社会において 死とともに生きる 新曜社
- 川島大輔 2011 生涯発達における死の意味づけと宗教 ナラティブ死生学に向けて ナカニシヤ出版
- 小嶋秀夫 1995 講座 生涯発達心理学 第 1 巻 生涯発達とは何かー理論と方法 金子書房, 11-35.
- 真壁顕久・古谷健・三谷嘉明 2010 スピリチュアリティと QOL の関係に関する理論的検討 名古屋女子大学紀要, 56, 41-52.
- 増井幸恵・権藤恭之・中川威・小川まどか・石岡良子・稲垣宏樹・蔡羽淳・安本佐織・栗延孟・小野口航・高山緑・新井康通・池邊一典・神出計・石崎達郎 2019 地域高齢者の精神的健康の縦断変化に及ぼす老年的超越の影響の検討ー疾患罹患・死別イベントに対する緩衝効果に注目してー 老年社会学会 41, 247-258.
- 松島公望・川島大輔・西脇良 2016 宗教を心理学する 誠信書房
- 三澤久恵・野尻雅美・新野直明 2010 地域高齢者のスピリチュアリティ評定尺度の開発ー構成概念の妥当性と信頼性の検討ー 日本健康医学会雑誌 18, 170-180.
- 内閣府 2018 平成 19 年度版 高齢社会白書 佐伯印刷
- 内閣府 2019 令和元年版 高齢社会白書 佐伯印刷
- 中川威・安本佐織 2019 加齢に対するポジティブなステレオタイプは高齢者において長寿を予測する 老年社会学会 41, 270-277.
- 中川威・増井幸恵・呉田陽一・高山緑・高橋龍太郎・権藤恭之 2011 老年期の語りに見る生 (life) の意味 老年社会科学, 32, 422-433.
- 中原純・藤田綾子 2006 役割欠如による心理的 well-being への負の影響に対するボランティア活動のバッファー効果ー高齢者を対象とした横断的検討ー 日本心理学会第 70 回大会
- 中原純 2014 シルバー人材センターにおける活動が生活満足度に与える影響 社会心理学研究 29, 180-186.
- 中原純・中里和弘・枝さゆり・武村節子・狩谷明美・藤田綾子 2008 独居高齢者の社会的役割が生活満足度に及ぼす影響 日本心理学会大 72 回大会
- ニューマン, B.M.・ニューマン, P.R. 1988 新版 生涯発達心理学ーエリクソンによる人間の一生とその可能性 川島書店
- 西平直 2003 スピリチュアリティ再考ールビとしての「スピリチュアリティ」 トランスパーソナル心理学／精神医学, 4, 8-16.
- 野尻雅美 2019 QOL 座標の理論の基礎と展開, 新しい QOL 概念へ 日本健康医学会雑誌 28, 98-106.
- 野村信威 2009 地域高齢者に対する個人回想法の自尊感情への効果の検討 心理学研究, 2009, 80, 42-47.

- 長田久雄 2007 人生 80 年時代に円熟期をいかに過ごすか クォーターリー生活福祉研究, 16, 4-17.
- 田口香代子・三浦香苗 2012 高齢者の生への価値観と死に対する態度 昭和女子大学生活心理研究所紀要, 14, 57-68.
- 高野了太・野村理朗 2018 「畏敬の念」の神経基盤に関する検討 自己概念変容の視点から 日本心理学会大会発表論文集 日本心理学会第 82 回大会論文集, 782.
- 丹下千賀子 2004 宗教性と死に対する態度 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 心理発達科学, 51, 35-49.
- 富澤公子 2009 ライフサイクル第 9 段階の適応としての「老年的超越」—奄美群島超高齢者の実態調査からの考察— 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, 2, 111-119.
- 富澤公子・Masami Takahashi 2010 奄美群島超高齢者の「老年的超越 (Gerotranscendence)」形成に関する検討—高齢期のライフサイクル 8 段階と 9 段階の比較— 立命館産業社会論集, 46, 87-103
- 矢吹章 2017 ライフストーリーインタビューが高齢者の心理社会的発達に及ぼす効果 吉備国際大学大学院 博士学位論文
- やまだようこ 1995 講座 生涯発達心理学 第 1 巻 生涯発達とは何か—理論と方法 金子書房, 57-92.
- 柳澤理子・馬場雄司・伊藤千代子・小林文子・草川良子・河合富美子・山幡信子・大平光子 2002 家族および家族外からのソーシャル・サポートと高齢者の心理的 QOL との関連 日本公衆衛生雑誌, 49, 766-773.